

中学校3年生生徒の保護者の皆様

苫小牧市立青翔中学校長 中川 恵介

平成28年度全国学力・学習状況調査の調査結果について

秋霜の候、保護者の皆様におかれましては、ますます御清栄のことと拝察申し上げます。

また、日頃から本校の教育活動に対しまして、御理解と御協力をいただき感謝申し上げます。

さて、本年4月19日（火）に実施しました全国学力・学習状況調査の結果が9月29日、北海道教育委員会から公表され、苫小牧市でも10月29日に公表されました。

本調査は、学習指導要領の定着状況の把握、すなわち生徒が学習内容をどの程度理解しているかを把握することとともに、調査結果の分析から生徒への指導の充実や学習状況の改善等を図ることを目的としています。苫小牧市は、市全体の平均正答数及び平均正答率を公表することとしておりますが、各学校の平均正答数及び平均正答率の公表については、本調査の目的と整合が図られないこと、学校の序列化を回避することが困難であることなどの理由から、行わないとの考えが示されました。

これを踏まえて、本校の結果と考察をまとめましたので、次のとおりお知らせします。

また、個人票（結果）につきましても、本日、配付しましたので御覧願います。

なお、「平成28年度全国学力・学習状況調査の調査結果」につきましては、苫小牧市立青翔中学校ホームページに掲載しております。

(<http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/gakko/seisho/>)

記

1 調査の概要

(1) 実施日 平成28年4月19日（火）

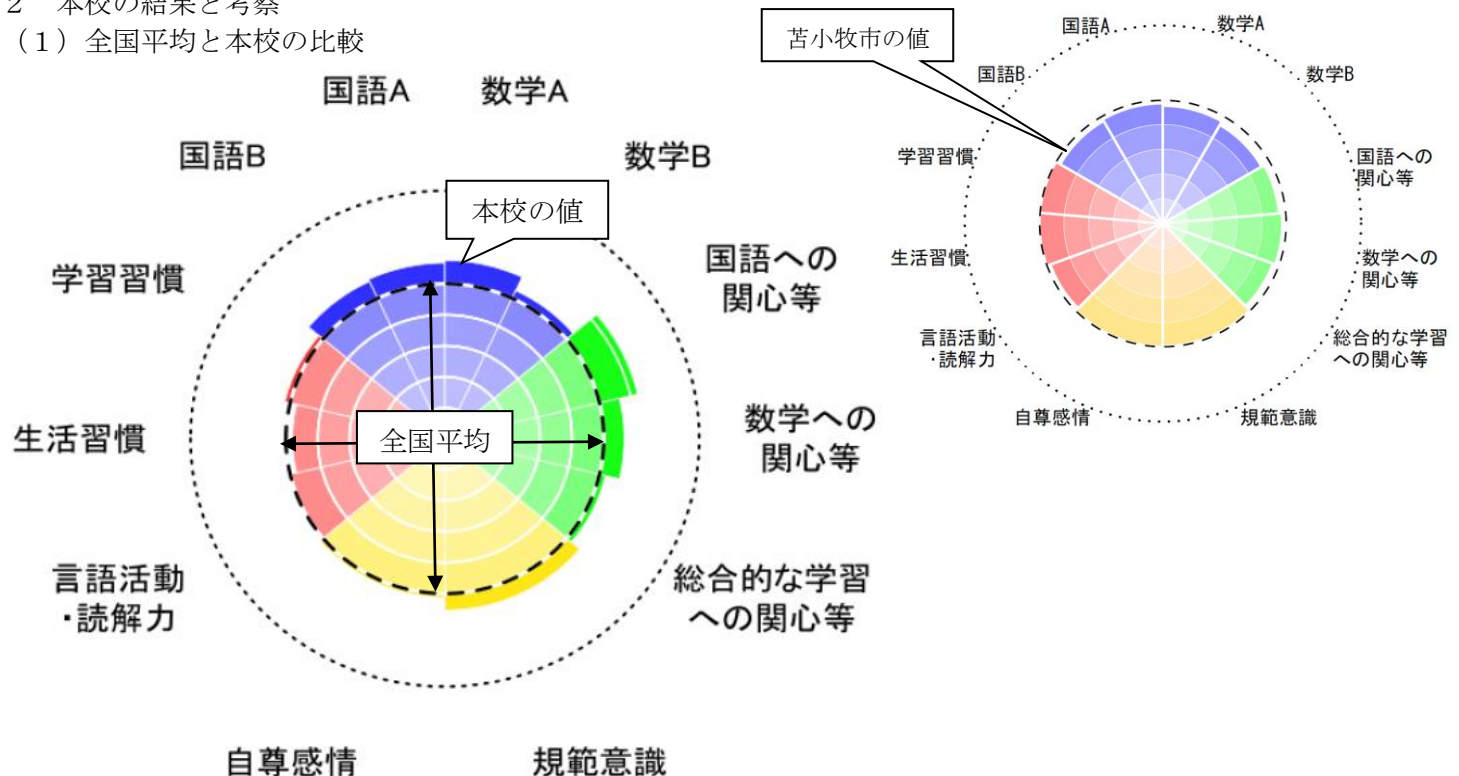
(2) 調査対象 中学校3学年（啓北中学校山なみ分校を除く市内中学校で実施）

(3) 調査事項

- ① 教科に関する調査は、国語、数学の2教科が出題され、主として「知識」に関するA問題と、主として「活用」（知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力など）に関するB問題が出題されました。
- ② 生活習慣、学習環境等に関する生徒質問紙調査が実施されました。
- ③ 学校に対して、指導方法や教育条件の整備等に関する質問紙調査が実施されました。

2 本校の結果と考察

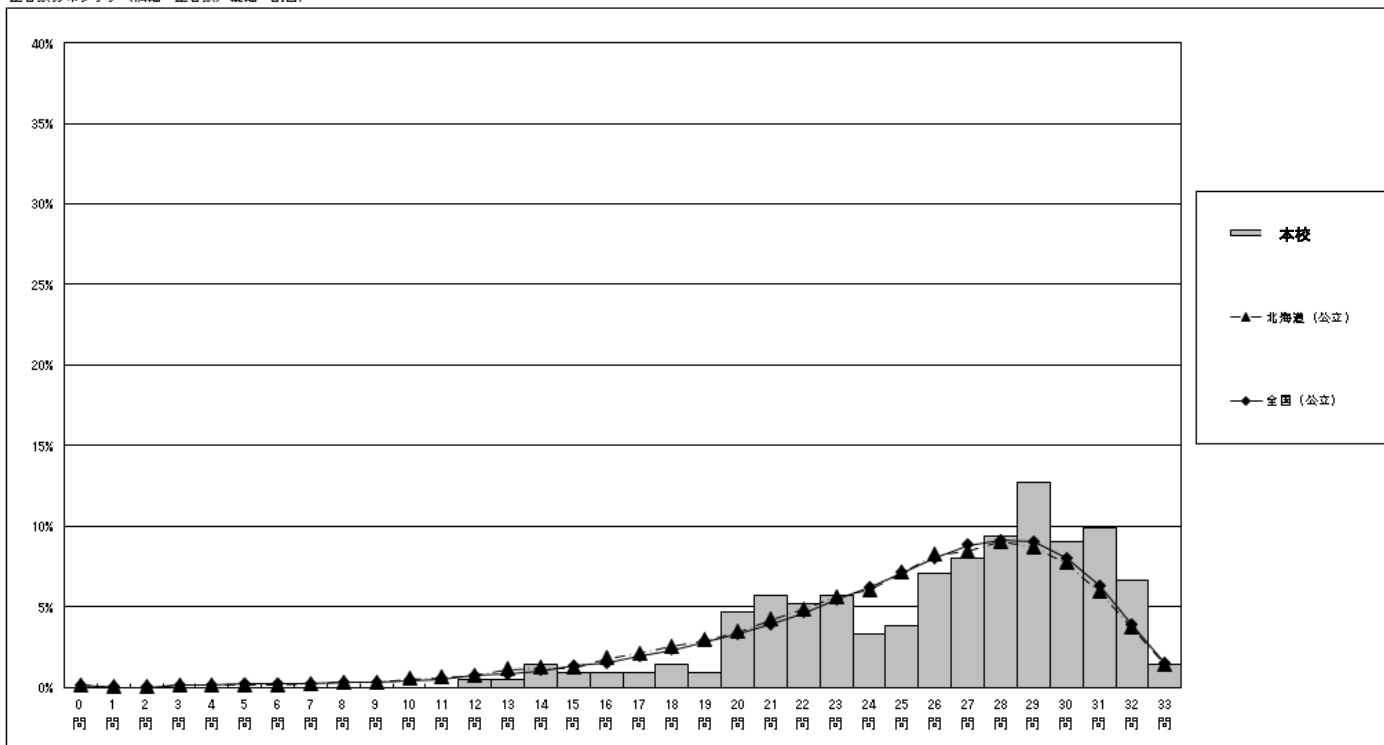
(1) 全国平均と本校の比較



平成28年度全国学力・学習状況調査

調査結果概要【国語A：主として知識】苦小牧市立青翔中学校

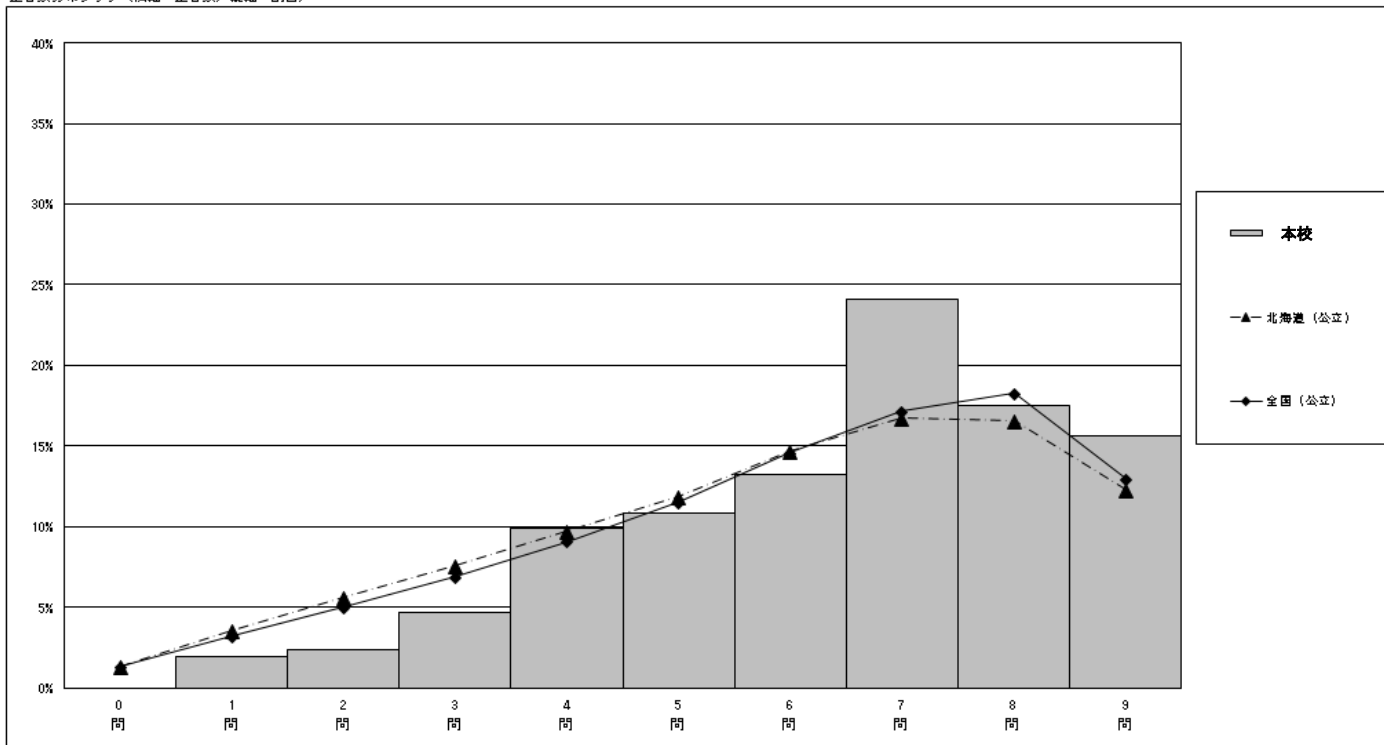
正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



平成28年度全国学力・学習状況調査

調査結果概要【国語B：主として活用】苦小牧市立青翔中学校

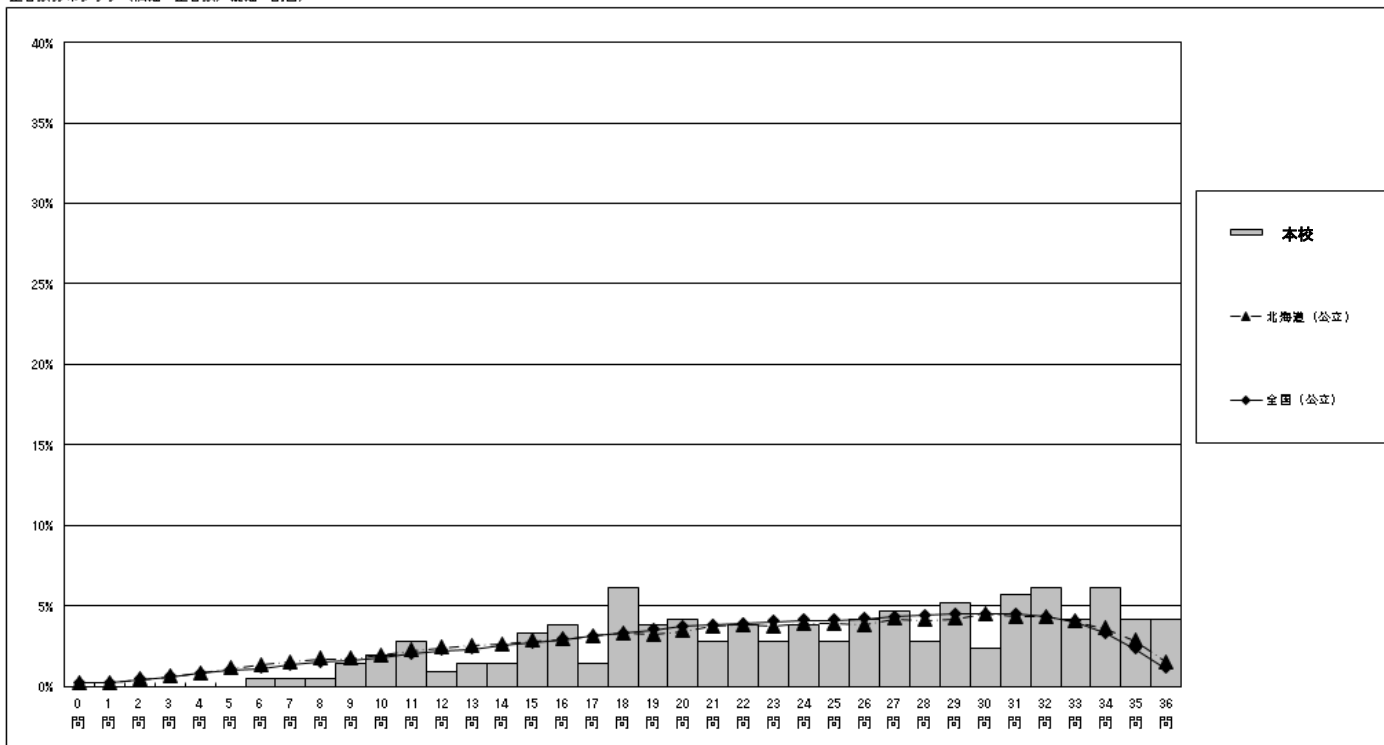
正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



平成28年度全国学力・学習状況調査

調査結果概要【数学A：主として知識】苦小牧市立青翔中学校

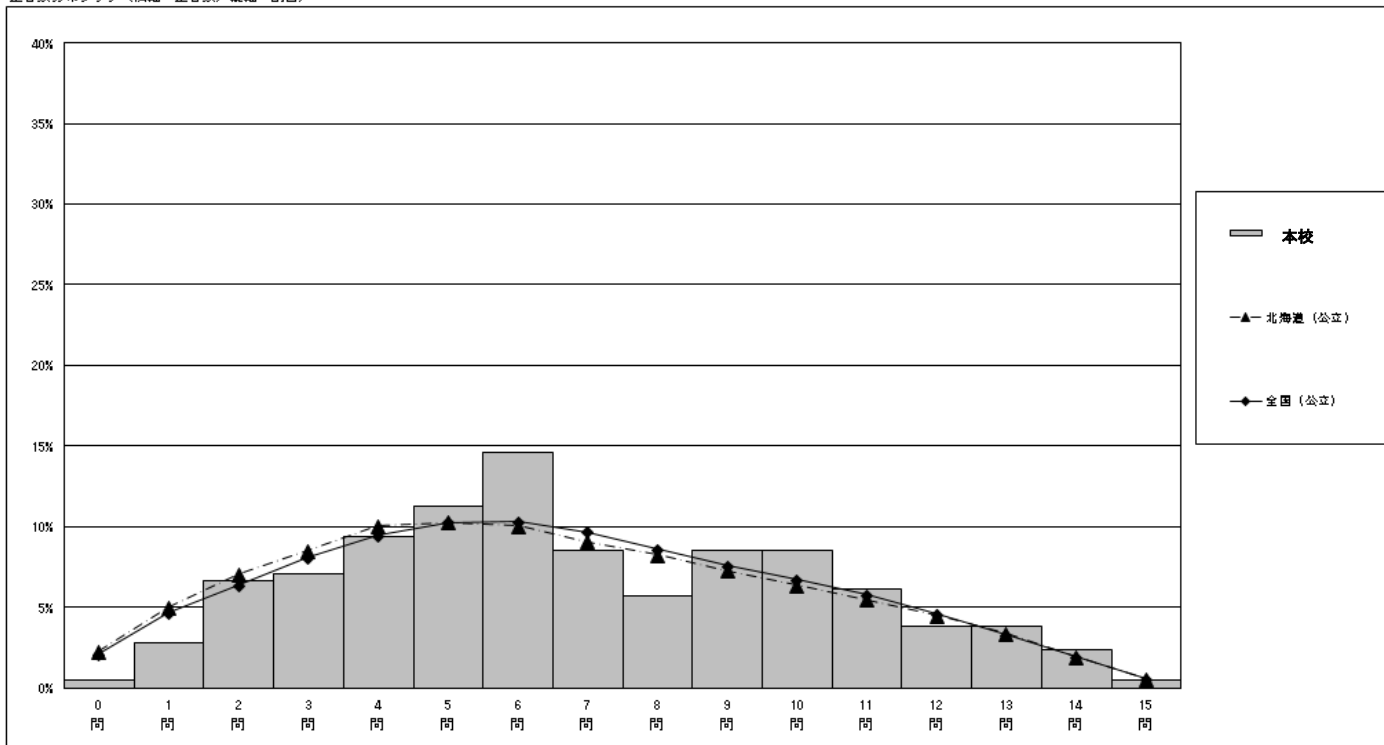
正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



平成28年度全国学力・学習状況調査

調査結果概要【数学B：主として活用】苦小牧市立青翔中学校

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）



(2) 国語科

国語A

- ・国語Aにおいては、平均正答率が全国平均を上回っている。
- ・国語Aの正答数の分布では、全国平均に比べ下位層が薄く、上位層が厚い傾向が見られる。
- ・国語Aの平均無解答率は、全国平均を下回っている。(無解答が少ない。)
- ・『読むこと』領域の平均正答率は、全国平均を大きく上回り、『話すこと・聞くこと』『書くこと』『伝統的な言語文化等』領域の平均正答率は、全国平均を上回っている。
- ・『伝統的な言語文化等』領域の「文字の大きさや形、配列に注意して書く」設問において、平均正答率が全国平均を大幅に上回っている。
- ・『書くこと』領域の「文の使い方などに注意して書く」設問、『読むこと』領域の「目的に応じて必要な情報を読み取る」設問、『伝統的な言語文化等』領域の「漢字を正しく書く」「文脈にあった適切な語句を使う」「文の成分の照応について理解する」「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す」設問において、平均正答率が全国平均を大きく上回っている。

国語B

- ・国語Bにおいては、平均正答率が全国平均を上回っている。
- ・国語Bの正答数の分布では、全国平均に比べ下位層が薄く、中から上位層が厚い傾向が見られる。
- ・国語Bの平均無解答率は、全国平均を下回っている。(無解答が少ない。)
- ・『書くこと』領域の平均正答率は、全国平均を大きく上回り、『読むこと』領域の平均正答率は、全国平均を上回っている。
- ・すべての記述式問題において、平均正答率が全国平均を大きく上回っている。
- ・『書くこと』『読むこと』領域の「文の表現の仕方等について、根拠をもって自分の考えを書く」「課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える」設問、『読むこと』領域の「文章の展開に即して内容を理解する」「目的に応じて必要な情報を読み取る」設問において、平均正答率が全国平均を大きく上回っている。

(3) 数学科

数学A

- ・数学Aにおいては、平均正答率が全国平均を大きく上回っている。
- ・数学Aの正答数の分布では、全国平均に比べ下位層が薄く、上位層が厚い傾向が見られる。
- ・数学Aの平均無解答率は、全国平均を下回っている。(無解答が少ない。)
- ・『図形』『関数』『資料の活用』領域の平均正答率は、全国平均を大きく上回り、『数と式』領域の平均正答率は、全国平均を上回っている。
- ・『数と式』領域の「数量関係を捉え比例式をつくる」設問、『図形』領域の「垂直の作図の方法を理解する」「平行線や角の性質を用いて、角の大きさを求める」「ひし形の対角線が垂直に交わることを記号で表す」設問、『関数』領域の「比例の式について、 x の増加に伴う y の増加量を求める」「一次関数の式から変化の割合を求める」設問、『資料の活用』領域の「測定値から近似値と誤差の意味を理解する」設問において、平均正答率が全国平均を大幅に上回っている。
- ・『数と式』領域の「自然数の意味を理解する」「不等式の意味を読み取る」「一元一次方程式を解く」「2つの等号で結ばれている方程式から連立方程式を完成させる」設問、『図形』領域の「立方体の見取図から角の大きさの関係をを読み取る」「多角形の外角の和の性質を理解する」「三角形の合同条件を理解する」「命題の逆を理解する」設問、『関数』領域の「反比例を表した事象を理解する」「反比例のグラフから式を求める」「一次関数のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求める」設問、『資料の活用』領域の『同様に確からしい』等について理解する」設問において、平均正答率が全国平均を大きく上回っている。
- ・『関数』領域の「一次関数の特徴について表と関連づけて理解する」設問において、平均正答率が全国平均を大きく下回っている。

数学B

- ・数学Bにおいては、平均正答率が全国平均をやや上回っている。
- ・数学Bの正答数の分布では、全国平均に比べ中から上位層がやや厚い傾向が見られる。
- ・数学Bの平均無解答率は、全国平均をやや下回っている。(無解答が少ない。)

- ・『図形』領域の平均正答率は、全国平均を大きく上回り、『数と式』領域の平均正答率は、全国平均を上回っている。また、『関数』領域の平均正答率は、全国平均をやや上回っている。
- ・『資料の活用』領域の平均正答率は、全国平均を下回っている。
- ・記述式問題においては、平均正答率が全国平均を上回っている。
- ・『図形』領域の「筋道を立てて考え、証明する」設問、『関数』領域の「一次関数の表から、 x の値に対応する y の値を求める」設問において、平均正答率が全国平均を大幅に上回っている。
- ・『数と式』領域の「与えられた情報から必要な情報を選択し処理する」「適切な事柄を判断し、その成立条件を数学的な表現を用いて説明する」「問題場面における考察の対象を明確に捉える」設問において、平均正答率が全国平均を大きく上回っている。
- ・『式と計算』領域の「計算の過程を振り返って、新たな手順を考える」設問、『資料の活用』領域の「与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現する」設問において、平均正答率が全国平均を大きく下回っている。

(4) 生徒質問紙

学校生活

- ・「学級会などの時間に友達同士で話し合っていて学級のきまりなどを決めている」「学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている」と回答した生徒の割合は、全国平均を大きく上回っている。
- ・「先生は自分のよいところを認めてくれている」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と回答した生徒の割合は、全国平均を大きく上回っている。
- ・「好きな授業がある」と回答した生徒の割合は、全国平均を上回っている。
- ・「学校で、友達に会うのは楽しい」と回答した生徒の割合は、全国平均をやや上回っている。
- ・「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」と回答した生徒の割合は、全国平均とほぼ同等である。
- ・「学校に行くのが楽しい」と回答した生徒の割合は、全国平均を下回っている。

【国語】

- ・「国語の勉強は好き」「国語の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合は、全国平均を大幅に上回っている。また、「読書は好き」と回答した生徒の割合は、全国平均を大きく上回っている。
- ・「国語の勉強は大切」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ」と回答した生徒の割合は、全国平均を上回っている。

【数学】

- ・「数学の勉強は好き」「数学の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合は、全国平均を大幅に上回っている。
- ・「数学の勉強は大切」「数学ができるようになりたい」「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ」と回答した生徒の割合は、全国平均を上回っている。

【総合的な学習の時間】

- ・「総合的な学習の時間の勉強は好き」と回答した生徒の割合は、全国平均を大幅に上回っている。
- ・「総合的な学習の時間の授業で学習したことは、普段の生活や社会にでたときに役立つ」と回答した生徒の割合は、全国平均を上回っている。
- ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答した生徒の割合は、全国平均とほぼ同等である。

【授業全般】

- ・「1、2年生の時に受けた授業では、先生から示された課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいた」「生徒間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した生徒の割合は、全国平均を大幅に上回っている。
- ・「1、2年生の時に受けた授業で扱うノートには、学習目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていた」と回答した生徒の割合は、全国平均を大きく上回っている。
- ・「1、2年生の時に受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていた」「1、2年生の時に受けた授業で、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていた」「1、2年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた」「1、2年生の時

に受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていた」「1、2年生の時に受けた道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいた」と回答した生徒の割合は、全国平均を上回っている。

- ・「1、2年生の時に受けた授業の中で、目標（めあて・ねらい）が示されていた」と回答した生徒の割合は、全国平均をやや上回っている。
- ・「1、2年生の時に受けた授業では、生徒間で話し合う活動をよく行っていた」と回答した生徒の割合は、全国平均を大幅に下回っている。また、「1、2年生の時に受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいた」と回答した生徒の割合は、全国平均を大きく下回っている。
- ・「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい」と回答した生徒の割合は、全国平均を上回っている。また、「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」と回答した生徒の割合は、全国平均を下回っている。

家庭生活

- ・「毎日、朝食を食べている」「毎日、同じ時刻に起きる」と回答した生徒の割合は、全国平均とほぼ同等である。
- ・「毎日、同じ時刻に寝る」と回答した生徒の割合は、全国平均を下回っている。
- ・全国平均との比較において、「平日の家庭学習時間（1時間以上）」は上回っており、「平日の家庭学習時間（2時間以上）」は大きく上回っている。
- ・全国平均との比較において、「休みの日の家庭学習時間（1時間以上）」は上回っており、「休みの日の家庭学習時間（2時間以上）」は大きく上回っている。さらに、「休みの日の家庭学習時間（3時間以上）」は大幅に上回っている。
- ・全国平均との比較において、「平日のTVやDVDを見たり、聞いたりする時間（2時間以上）」はやや下回っているが、「平日のTVゲームをする時間（2時間以上）」はやや上回っている。また、「平日の携帯電話・スマートフォンをする時間（2時間以上）」はほぼ同等であるが、「3時間以上する」生徒の割合は全国平均をやや上回っている。
- ・「学校の宿題をしている」と回答した生徒の割合は、全国平均を上回っており、「学校の授業の復習をしている」と回答した生徒の割合は、全国平均を大きく上回っているが、「学校の予習をしている」は、全国平均を下回っている。
- ・「予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している」と回答した生徒の割合は、全国平均を大きく上回っている。

自己肯定感

- ・「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と回答した生徒の割合は、全国平均を上回っている。
- ・「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒の割合は、全国平均をやや上回っている。
- ・「自分には、よいところがあると思う」と回答した生徒の割合は、全国平均とほぼ同等である。
- ・「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と回答した生徒の割合は、全国平均をやや下回っている。

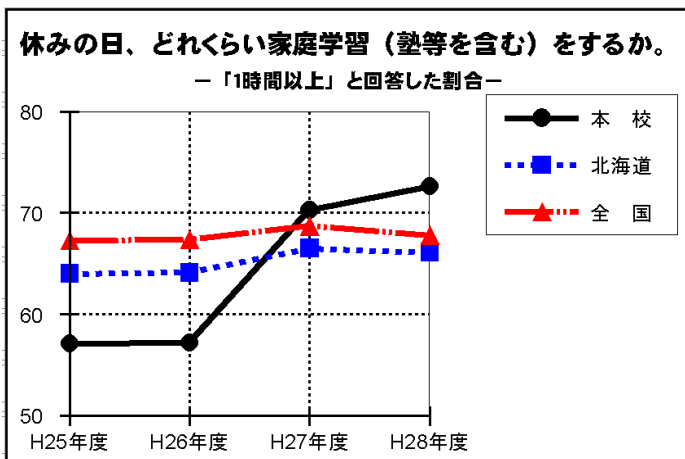
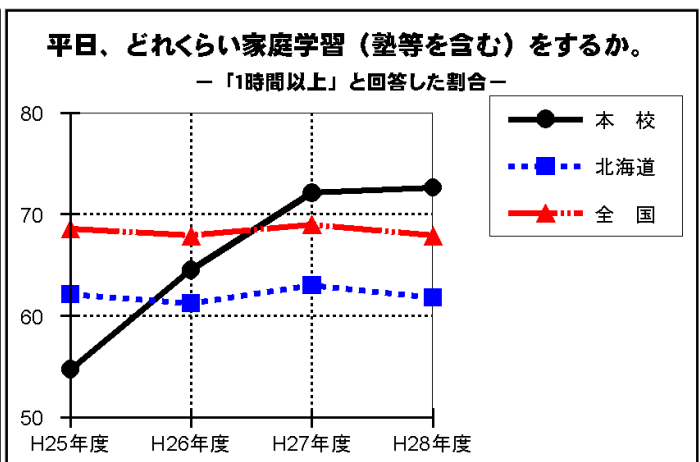
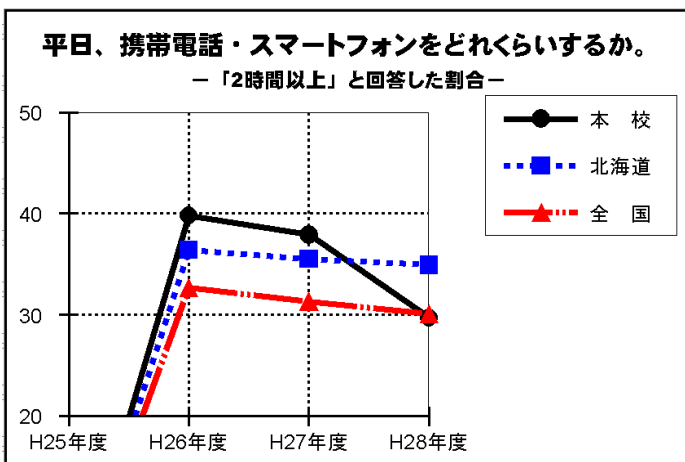
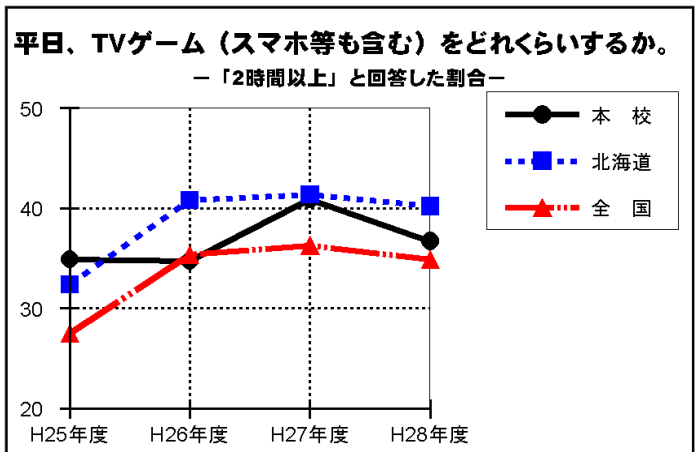
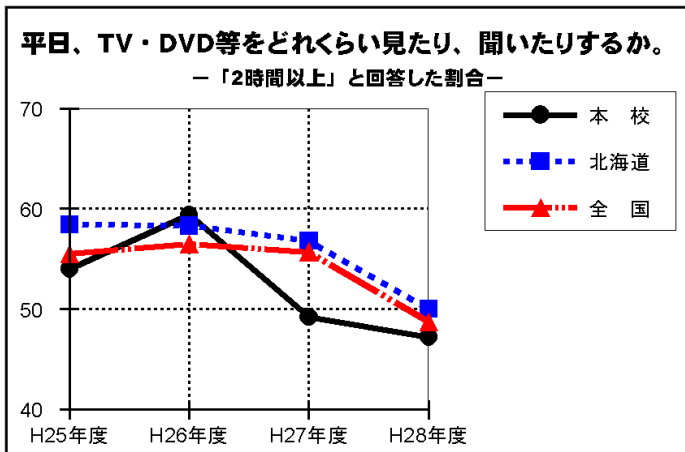
道徳的価値観

- ・「人が困っている時、進んで助ける」と回答した生徒の割合は、全国平均を大きく上回っている。
- ・「学校の規則を守っている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した生徒の割合は、全国平均を上回っている。
- ・「友達との約束を守っている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した生徒の割合は、全国平均とほぼ同等である。

社会や地域への関心

- ・「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」と回答した生徒の割合は、全国平均を大幅に上回っている。
- ・「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と回答した生徒の割合は、全国平均を大きく上回っている。
- ・「テレビやインターネットのニュースを見る」と回答した生徒の割合は、全国平均を上回っており、「新聞を読んでいる」と回答した生徒の割合は、全国平均をやや上回っている。
- ・「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した生徒の割合は、全国平均を大きく下回っている。

全国学力・学習状況調査【生徒質問紙】H25年度～H28年度



とまごまひ 学びの3か条

- MS-1 ゲーム・スマホ8時でセーブ /
- MS-2 3つの習でレベルアップ /
- MS-3 学年×10+10分でステージクリア /

めざせ!
つむぎマスター

苫小牧市教育委員会

*平成25年度は、「平日、携帯電話・スマートフォンをどれくらいするか」の質問項目はありません。

3 学校の今後の取組について

国語科

国語A・Bについては、『話すこと・聞くこと』『書くこと』『読むこと』『伝統的な言語文化等』領域、すべてにおいて全国平均を上回っていることから、良好な状態にある。

しかしながら、正答率において、『伝統的な言語文化等』領域の「A；文脈に即して漢字を書く」設問、具体的には「今までにないドクソウ的な考え方だ。」のカタカナを漢字に直す設問で、その正答率が3割に満たない状況がある。また、同領域の「A；語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」「A；文字の形や大きさ配列に注意して書く」設問、『書くこと』『読むこと』領域の「B；課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える」設問が4～5割程度の正答率であることから、焦点化、重点化した取組が必要である。

※「A；○○・・・」は、「国語Aにおいて出題された設問」。「B；○○・・・」は、「国語Bにおいて出題された設問」。

【改善策】

- ・日常的な漢字指導の充実に努める。そのため、既習の漢字を積極的に使用するよう指導するとともに、同音の漢字や形が似た漢字など、間違えやすい漢字に注意するような継続的な指導に心掛ける。
- ・場面に即した語句・語彙指導の工夫に努める。そのため、語句の辞書的な意味を基にして、文脈の中での意味を捉えたり、使い分けたりするような場面を設定する。更に、語感を磨き、語彙を豊かにするために、辞書や資料集などを活用しながら、着目した言葉について複数の類義語で言い換えたり、ことわざや慣用語、故事成語などの表現に置き換えたりすることに加え、比喩を用いて表現するなど、表現の仕方を広げるように指導する。
- ・毛筆指導の工夫に努める。そのため、書いたものについて生徒同士が互いに評価し合う場面を設ける。その際、字形や文字の大きさ、配列などの観点を具体的に示した上で、実際に書き直したものを見比べるように指導する。
- ・自ら課題を決め、解決するための方法を考えるように指導する。そのため、互いに感想を交流して疑問点を出し合い、新たな課題を設定する学習活動を取り入れる。また、新聞や雑誌、コンピュータや情報ネットワークなどの様々な情報手段、学校図書館などの活用を図るよう支援する。

数学科

数学Aについては、『数と式』『図形』『関数』『資料の活用』領域、すべてにおいて全国平均を上回っている。また、数学Bについては、『数と式』『図形』『関数』領域において、全国平均を上回っており、『資料の活用』領域においては、全国平均を下回っている。

以上のことから、一部の領域でやや課題は見られるものの、総じて良好な状態である。

しかしながら、正答率において、『数と式』領域の「A；数量の関係を文字で表す」設問、具体的には「ある数を3で割ると、商がaで余りが2になります。ある数を、aを用いた式で表しなさい。」の設問で、その正答率が3割程度という状況がある。また、『関数』領域の「A；反比例のグラフから式を求める」設問、『資料の活用』領域の「A；資料を整理した表から最頻値を読み取る」設問が4割程度の正答率である。併せて、『数と式』領域の「B；文字を使って手順通りに求めた数から最初に決めた数を当てる方法を説明する」設問は2割に満たない正答率であることから、焦点化、重点化した取組が必要である。

※「A；○○・・・」は、「数学Aにおいて出題された設問」。「B；○○・・・」は、「数学Bにおいて出題された設問」。

【改善策】

- ・事柄や数量の関係を捉え、その関係を文字式に表すことができるようにする。そのため、関係を図に表したり、具体的な数や言葉を使った式を利用したりして関係を捉え、文字式に表すように指導する。また、ある数を具体的な数に置き換えることにより、被除数、除数、商、余りの関係について、言葉や文字を使った式に表す活動を取り入れる。
- ・反比例のグラフからxとyの関係を式で表すことができるようにする。そのため、反比例のグラフからx座標とy座標の値を読み取り、xとyの値が常に一定の値aになることを調べ、反比例式が $y = \frac{a}{x}$ という式で表されることを確認する場面を設定する。また、反比例のグラフには、x軸とy軸のそれぞれに限りなく近づくが交わらないという特徴があることを再確認する。
- ・代表値の必要性和意味を理解し、代表値を求めることができるようにする。そのため、目的に応じてデータを収集して整理し、資料の傾向を読み取る活動を取り入れる。更に、分布が非対称であったり、極端にかけ離れた値があったりする場面を取り上げ、資料の代表値として何がふさわしいかを考察する場面を設定する。
- ・文字を用いて処理した結果に基づいて、問題解決の方法を説明できるようにする。そのため、処理の手順を数学的に考察する場面を設定するとともに、等式の変形過程に基づいて問題の解決方法を振り返る場面を設定する。

生徒質問紙

- ・国語や数学の勉強を大切にしている生徒や、「その学習が将来、社会に出たときに役立つ」と考えている生徒の割合が多いことから、学習への意欲や必要感が高い状況にある。さらなる授業改善と家庭学習等の充実を目指していく。【学校生活（教科指導）・家庭生活】
 - ・「学級会での話し合い活動」等を大切にし、「みんなで協力することの喜び」を感じている生徒が多いことから、日常的な諸活動の質の向上を図るとともに、学校行事等を精選していく中で、達成感や自己肯定感を高めていくよう指導・支援していく。【学校生活（諸活動・行事）・自己肯定感】
 - ・授業中の話し合い活動を通して、自分の考えを広めている生徒が多いものの、話し合いの場の設定機会が少ない傾向が見られる。また、「授業の最後の振り返りの活動」は充実しつつあるが、「学習課題の明確化」に課題が見られる。以上のことから、本校の授業改善の取組の柱である、一単位時間の授業における、①目標の「焦点化」、②何ができればよいかの「イメージ化」、③計画的板書による「可視化」、の取組を確立させていく。【学校生活（教科指導）】
 - ・「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標をもっている」「人の役に立ちたいと思う」と考えている生徒の割合が多いことから、職業体験や進路指導等のキャリア教育の中で、自分の将来を見つめ、考える場面を設定していくと同時に、自己肯定感や道徳的価値観のさらなる向上に努める。【学校生活（キャリア教育）・自己肯定感・道徳的価値観】
 - ・授業で分からないことがあったとき、そのままにしておかず、すぐに解決しようとする姿勢の生徒が多い。授業時間における振り返りの活動・補充的な学習の時間・家庭学習ノート等を有効的に活用することで、基礎学力の定着・学習意欲の更なる向上を図っていく。【学校生活（学習全般）・家庭生活】
 - ・携帯電話・スマートフォンの所持率が80.7%（全国平均81.2%）となっており、「携帯電話・スマートフォンの利用時間（平日2時間以上）」が29.7%（全国平均30.1%）であることを踏まえ、「とまこまい学びの3か条」（①ゲーム・スマホは8時でセーブ、②3つの習でレベルアップ、③学年×10+10でステージクリア）を各種通信や懇談会、そして、「子育て研修会」を通して、積極的に啓発していく。【家庭生活】
 - ・「朝食を毎日食べている」生徒が100%（本校94.3%/全国平均93.3%）になるよう「早寝・早起き・朝ご飯」の啓発を強化するなど、家庭との連携・協力体制を深める。【家庭生活】
- ※ 今年度、「子育て研修会」（H28.10/14,18:30~）、「地域子育て研修会」（H29.2/10, 18:00~）を開催予定。
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と考える生徒の割合（本校96.3%/全国平均93.6%）が増加傾向にある。「いじめ根絶集会」等を継続する中で、全生徒が「いじめは絶対ダメ！」と考えられる環境づくりを目指す。【道徳的価値観】
 - ・「ボランティア活動に参加している生徒」は、全国平均を大幅に上回っているものの、「地域行事に参加している生徒」は、全国平均を大きく下回っている現状から、各町内会と連携する中で、各種ボランティア活動等を通して、活動の質の向上を図るとともに、地域行事へ参加する姿勢をさらに高めていく必要がある。【社会や地域への関心】